

平成29年度 調布市立染地小学校 学校経営計画

学校教育目標

あたたかく たくましく まえむきに 生きる子供

目指す学校像(ビジョン)

- 基礎的・基本的な学習内容を身に付けさせ、深い学びを展開できる学校
- 学校の課題を自覚し、職層や経験や役割に応じ、組織人として能力を発揮できる学校
- 開かれた学校を推進し、地域の学校として保護者・地域から愛される学校

本校の現状と課題

- ・通常級と特別支援学級併設の特徴を活かした交流を行い、全校を挙げてインクルーシブ教育の意義と目的を理解し、実践を深める。
- ・児童の減少に伴う学級減とともに、教員数の減により、過度の負担が教員にある。児童増加の取り組みと同時に、職務の精選とライフワークバランスの考えに基づいた校務遂行が必要である。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標
				※ 数値目標が可能な項目について設定する
学力向上	「 <u>わかった、できた</u> 」が実感でき、 <u>学ぶ楽しさや喜びを感じる</u> ことができる授業の実践。	情報化社会の中で育った今日の児童にとって、 <u>深い学びが実践できる</u> よう授業改善を進める。	基礎・基本の繰り返しと授業規律を重視しつつ「 <u>わかった</u> 」から「 <u>やってみよう</u> 」へ学習意欲を向上させる。そのため、校内研究のテーマを「 <u>みんながわかる、みんなができる算数科の授業</u> 」とし、 <u>ユニバーサルデザインの視点から授業改善を進める。</u>	全国学力学習状況調査において、全国平均を上回る。体力向上で都の平均を上回る。学校評価の保護者アンケート項目で肯定意見を80%以上。
		学びを発展させるための学習機会として表現活動を重視し、各種行事で児童の発表する場を意図的に設ける。	教科学習によるインプットにより基礎・基本の定着を図るとともに、対話的活動や言語活動によるアウトプットを重視し、授業の中に発表する場を設けるとともに各種行事の中に児童の発表する場を設け、体験学習・表現学習の機会とする。	校内研究を促進し、夏季研修、指導教諭模範授業、調小研への積極的な参加をする。行事評価の肯定意見80%以上。
健全育成	支持的風土づくりを進め、いじめや偏見のない学校づくりを進める。	あいさつがしっかりできて、自他を尊重する心を育て、また、自分の身は自分で守れるようにする。	あいさつ運動週間をはじめ、日常の校内生活や授業において挨拶の習慣化を図る。また、避難訓練や防災教育の日など通し、「自分の身は自分で守る」自助を徹底して指導し、不審者対応、交通安全、火災などにも応用させる。さらに、情報モラル教室を実施しリテラシーを高める。	学校評価の保護者アンケート各項目で肯定意見を80%以上、安全安心メールの加入率80%以上、アレルギーと交通事故ゼロを目指す。
		スクールカウンセラーや校内委員会を活用し、子供の心情のくみ取りや少しの変化も見逃さない体制を構築する。	都・市の2人のカウンセラーを活用し、担任や保護者、校内委員会と連携し活用の推進を図る。また、カウンセラーによる5年生児童の全員面接を1学期中に行い、子供の思いや願い、悩みなどを聞き取る。生活指導部と特別支援コーディネーターが中心となった校内委員会を共有の場とし、生活指導朝会や夕会で全教職員が児童の様子を知る。	1学期には終了予定。その後は必要に応じて面談などを実施する。教職員の年度末反省で肯定意見が80%以上。
健康・体力づくり	体力の向上を推進し、将来にわたって運動することの楽しさを学ばせる。	オリンピック・パラリンピック教育推進校として、世界や障害者に目を向けさせる。	一流アスリートによる示範授業と講演から、児童に本物に触れさせる機会とする。体育系大学との連携により正しい走り方教室を行う。これらにより、2020東京オリンピック・パラリンピックに夢と興味をもたせ、体力向上につなげる。	児童アンケートや作文を実施し。10月は世界で活躍する指導者、11月には超一流のオリンピックによる授業を計画する。これは、一般に公開する。
		食物アレルギーについてはもちろん、食べることの大切さも、正しい知識と理解を推進する。	栄養士と綿密に連携を図り、ランチルームでの給食で栄養士や調理員と会食したり、食育の授業にゲストティーチャーとして招いたり、食に対する正しい知識と実践する力を身につけさせる。また、学童農園での作付け、収穫など体験的な活動を取り入れた体験的な学習を行う。	計画的に実施し、年間指導計画にも位置づける。食物アレルギー対応研修会とシミュレーションの実施。学校評価アンケートの肯定意見が80%以上。
保護者・地域との	家庭と地域から信頼され、安心される学校にする。	保護者や地域の願いを学校経営に反映させる。	早い時期に個人面談をするとともに、個別指導計画などの作成にも力を入れ、一人ひとりに合った指導ができるよう、保護者と綿密な話し合いや情報の共有を図っていく。また、各種行事では保護者アンケートを実施し、保護者の意見を知る。	個別の教育支援計画を保護者面談のおりにしっかりと共通理解した上で作成していく。学校評価を目に見えるグラフ化し、フィードバックする。学校評価の肯定意見が80%以上。
		学校開放や健全育成、民生児童員などと連携し、子供の見守りをそれぞれの立場から連携を深める。	いろいろな立場から子供を見守り支援することを目指し、関係諸機関との会合や情報交換を密にし、多方面からの連携強化を図っていく。また、各種地域行事には学校体制として参加する。さらに、染地小学校を地域の拠点となるよう開かれた学校づくりを進める。	毎月の学校開放委員会・健全育成の会合・民生児童委員との連絡会・学童とユーフターの学校ミーティングなどを活用し、綿密に連絡を取り合い連携していく。
	支持的風土に根ざした学校、学級づくりを進め、人権尊重教育を推進する。	他者理解ができる子どもの育成をする。	1年生から6年生の異学年集団による「はちの子タイム」でゲームをし、異年齢の中での尊敬や上級生のリーダーシップを身につけさせる。固定の特別支援学級との交流を、運動会・遠足・授業を通して図る。	児童アンケートと保護者アンケートの肯定意見が80%以上。
		食に関する知識や実践力を身につけさせる。	学期1回の校庭芝生での縦割り班での青空弁当給食を実施すると共に、食育朝会、高齢者とのふれあい給食やランチルームでの合同会食会などを通じ、ふれあいと共に、食に関する関心・意欲・知識の向上を図り、食の安全や食物アレルギーに関する正しい知識と理解を図る。	異学年とのふれあいにより、異年齢の仲間作りを目指す。道徳、学級指導、給食指導を通じて正しい知識の習得や理解を深める。